浜離宮恩賜庭園の大泉水及び横堀における景観構造に関する研究

A Study of Landscape Structure in Dai-sensui and Yokobori Area of Hamarikyu Garden

小泉 萌* 石川 幹子**

Moe KOIZUMI Mikiko ISHIKAWA

Abstract : The purpose of this study is to analyze the landscape sequence structure in Dai-sensui and Yokobori area of Hamarikyu Garden. The following four points were clarified. ①The landscape structure is clearly consisted of four different parts and critical points, the middle of Dai-sensui (big pond), surrounding areas of Daisensui, Yokobori area, middle area between Dai-sensui and Yokobori areas, and scenic points. ② Tidal ponds have a significant role to create the landscape sequence. Diverse methods to create landscape sequence were introduced such as the distribution of scenic points, dynamic changes of openness and closeness. ③The ocean is the essential factor for the composition of landscape structure. View points to the ocean were carefully created as the focal point of the garden. ④However, because of the rapid urban redevelopment of surrounding areas, the traditional landscape structure has faced to the crisis of destruction. Based on this landscape analysis, we urge to propose the necessity of the landscape control for the traditional garden.

Keywords: Hamarikyu, landscape structure, sequence landscape, scenic point

キーワード: 浜離宮, 景観構造, シークエンス景観, 眺望点

はじめに

都市の中の文化財庭園は、周辺環境の高層化などの変化に伴う景観変容が著しく¹⁾、景観をどのように保存・マネジメントするかが課題となっている。今回、研究の対象として取り上げた浜離宮恩賜庭園（以下、浜離宮）では、近年、汐留地区の再開発により園内景観が大きな変化を遂げた。また今後、隣接する築地市場の移転と再開発により、更なる景観の変容が生じると予想されており、庭園景観の本質的構造についての理解が急務となっている。

浜離宮は、水量を中心に築山、茶屋、橋等を園路で結び配置しシークエンス景観を創り出している。本研究では、シークエンス景観の分析を基に、浜離宮の景観構造について考察を行う。

シークエンス景観の分析に関する既往研究としては、禅寺の景観構造の分析を行った高橋らの研究²⁾、回遊式庭園の開放度とインパクト度に着目した研究³⁾などがあるが、回遊式庭園の基本構造である景観要素と園路に着目し人間の歩行に合わせ移り変わるシークエンスから景観そのものの構造を分析した研究は少ない。浜離宮に関する既往研究は、史料に基づく歴史的研究^{4)~8)}、また護岸実測による空間的研究⁹⁾等がある。

1. 研究の対象と方法

浜離宮は、17世紀半ばに造成された池泉回遊式庭園（面積約25ha）で、本研究では江戸時代固有の旧状をとどめている¹⁰⁾とされる庭園南部の大泉水・横堀（双方共潮入池）とその周辺部分（図-1斜線部）を分析対象地とする。

研究の方法は、シークエンス景観の分析を基本とする。回遊式庭園におけるシークエンス景観とは、「ある視点場から見える一つの景観（シーン）が、その視点場から次の視点場へ鑑賞者の歩行に伴い順次移行することで、鑑賞者の体験としてつながり、文脈を有する一連の景観となったもの」を示すと定義する。その上で、景観を構成する茶屋、築山、橋などを景観要素として選定し、シークエンス景観を分析する対象となる園路を選定した。次に、

園路の模式図を作成し、分析の基礎とした。さらに園路上の視点場から見える景観を撮影し、写っている景観要素を記録しダイアグラム化した。園路の模式図とダイアグラムを元にシークエンス景観分析を行い、景観構造を明らかにした。

（1）景観要素

既往研究⁴⁾による対象地に存在する景観要素に加え、観音堂、富士見山など移設あるいは消失してしまった景観要素、船着場など構成上必要と考えられる景観要素を加えて決定した（図-2）。

（2）対象とする園路

浜御殿図¹¹⁾に描かれた園路のうち復元されている園路を選定した（図-3）。

（3）調査方法

対象とする園路上の視点場から撮影した写真を分析資料とした。池泉回遊式庭園において鑑賞者の視野は全方向に広がる可能性がある点を考慮し、写真は、視点場から見える景観の全方向が写るように撮影した。視点場は、景観要素が見える或いは見えなくなることによる景観変化が認められる地点とし、全88箇所、視点場同士の間隔は約5~40mであった。調査は、2005年9・10・11月の晴れた日に行い、デジタルカメラで地表より150cm上の目線の高さから全周を撮影した。

（4）景観分析

水量と園路を軸として作成した断面模式図（図-4）と、全視点場の景観要素を記録したダイアグラムを作成し、4つのシークエンス景観と眺望点とに分類した（表-1~表-5）。これらを元にシークエンス景観の分析を行い、景観構造図を表した（表-6）。

図-1 分析対象地

*慶應義塾大学政策メディア研究科 **慶應義塾大学環境情報学部

図-2 景観要素

図-3 対象園路と視点場 88 箇所と園路区間

2. シークエンス景観分析

まず、水景と園路配置の関係から、各園路の断面模式図を作成した(図4)。

これを、全視点場から景観要素を記録したダイアグラムと合わせて、各シークエンス景観を分析したものが表1～表5である。表中の縦軸に、視点場の番号を園路に沿って並べ、視点場間の間隔をセルの縦幅で示した。(例えば表1で御伝い橋北から小の字島迄の距離は、御伝い橋北のセルの間隔で表示し、約14mである。)視点場の順序は、鑑賞者の自由な選択によりあらゆる可能性が考えられるが、ほぼ全ての園路について記述する為、便宜上、通し番号を付した。園路は、分岐点までを一つの区間とし、AからLまでの記号を付した。横軸に、対象地の北西側から海側へ順次、景観要素を配列した。縦軸と横軸がクロスする箇所の記号は、●が縦軸の視点場から横軸の景観要素が見える状況を示し、連続して見える場合は実線で繋げて表記した。○は樹木等により隠され不完全だが視認できる状況、空白は全く見えない状況を意味する。

また、分析結果を景観構造図として平面上で表した(図-5)。

(1) 大泉水中央部のシークエンス景観(表-1、図-5参照)

当該地域を特徴づける顕著なシークエンス景観が、大泉水中央部の景観である(表-1)。景観要素は、御亭山を境界として大泉水側に特化しており、横堀側は一切見えず、基本的に内部に閉じた自己完結的空間となっていることがわかる。一方で、鑑賞者に開放感を与える空間でもある理由は、実線で繋がっているダイアグラムからもわかるように、景観の断絶がなく連続的で、大泉水を重視した明快なシークエンス景観が形成されていることによる。

図-4 園路の断面模式図

表-1 大泉水中央のシークエンス景観

区間	視点場	一北西(陸地)側															南東(海)側				
		八景山	三茶	中島	大島	小島	御伝い橋	御亭山	御亭山	御亭山	御亭山	御亭山	御亭山	御亭山	御亭山	御亭山	御亭山	御亭山	御亭山	御亭山	御亭山
B	お伝い橋(北)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	小の字島	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	お伝い橋(北)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	お伝い橋(北)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
E	中島の茶屋	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	中島の茶屋	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	中島の茶屋	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	中島の茶屋	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	中島の茶屋	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	中島の茶屋	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	中島の茶屋	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	中島の茶屋	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	中島の茶屋	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	中島の茶屋	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
D	お伝い橋(南)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	お伝い橋(南)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	お伝い橋(南)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	お伝い橋(南)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

(2) 大泉水をめぐるシークエンス景観(表-1、図-5参照)

大泉水周辺部をめぐる景観の展開は、上記の中央部のそれとは、明確に異なるダイアグラムとなっている(表-2)。その特徴は、開放的景観と閉鎖的景観を対照的に配置することにより、鑑賞者の心理に劇的な働きかけをしていることにある。表2のA-Jは、外周林の鬱蒼とした森から、一転して藤棚のエリアが開放的空間となっていることを示している。また、八景山、(新)富士見山などへ向かう展開も劇的である。八景山への景観は、鬱蒼とした森から(視点場8-10)、三間橋(視点場12)にかけて徐々に開放的な景観へと移行し、八景山周辺は、数多くの景観要素が一度

表-2 大泉水をめぐるシークエンス景観

ルート	視点場	一北西(陸地)側															南東(海)側				
		八景山	三茶	中島	大島	小島	御伝い橋	御亭山	御亭山	御亭山	御亭山	御亭山	御亭山	御亭山	御亭山	御亭山	御亭山	御亭山	御亭山	御亭山	御亭山
A	外周の森	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	外周の森	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	外周の森	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	外周の森	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
C	お伝い橋(北)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	お伝い橋(北)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	お伝い橋(北)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	お伝い橋(北)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	お伝い橋(北)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	お伝い橋(北)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	お伝い橋(北)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	お伝い橋(北)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	お伝い橋(北)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	お伝い橋(北)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	お伝い橋(北)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
F	お伝い橋(南)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	お伝い橋(南)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	お伝い橋(南)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	お伝い橋(南)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	お伝い橋(南)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	お伝い橋(南)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	お伝い橋(南)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	お伝い橋(南)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	お伝い橋(南)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	お伝い橋(南)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	お伝い橋(南)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

(3) 横堀のシーケンス景観 (表 3, 図 5 参照)

表-3 横堀のシーケンス景観

(4) 大泉水と横堀の中間領域のシークエンス景観（表4、図5参照）

(5) 眺望点(築山の頂点、中島茶屋)(表5、図5参照)

八景山は、眼下に大泉水の多様な景観要素を近景とし、御亭山や中の橋を中景とし、遙かに海を展望する、近景、中景、遠景の全てを有する眺望点である。中島茶屋は、大泉水中央部に位置し、海は見えないが海の縮景としての大泉水南東の水面が全て見わたせる眺望点である。(新)富士見山は、大泉水を眼下とする一方、海の方角にも開け、異なる景を双方臨める眺望点となっている。御亭山は、対象地のほぼ中央に位置し、大泉水、横堀、海の水景を全て含んだパノラマ景が特色である。樋之口山は、遠景の海のみの特化した眺望点である。以上のようにこれら5つの視点場は、それぞれ全く違う景観を提供している眺望点である。

表-4 大泉水と横堀の中間領域のシーケンス景観

表-5 眺望点（築山の頂点、中島茶屋）の景観構成

図-5 浜離宮恩賜庭園の大泉水及び横堀における景観構造図

3. 周辺地域の再開発による景観への影響

浜離宮周辺地域では、市街地再開発事業が急速に進展し、高層建築物が庭園景観に影響を与えている。前項までで分析した景観構造に基づき、高層建築物と庭園景観の関係を、シークエンス景観の構造上の要である眺望点（景観を海に限定している樋之口山は除く）を例に挙げ、図-6、表-6に示す。

図-6中のグレーの部分は、築山の頂点、及び中島茶屋からの可視領域を示し、濃い点の部分は高層建築物が園外に見える領域を示し、これを建築物の影響のある領域とみなし、この領域に重なる景観要素を表-6中に網掛けで示した。4つの視点場全てから高層建築物が見えることがわかる。八景山は、主要な展望の方向が海側である為、晴海地区の再開発の状況に影響されやすい。(新)富士見山と御亭山は、大泉水と中島茶屋を望む方向に汐留地区の建築物の影響が大きく、ほとんどの景観要素が影響を受けている。中島茶屋では、大泉水を望む閉鎖的な景を晴海地区の建築物が断続的に切断している。要となる視点場が、このような甚大な影響を受けている為、全体的なシーケンス景観への影響も極めて大きい。挙げた例以外のほぼ全ての視点場においても景観は建築物の影響を受けている。しかし現時点では、築地方面には

図-6 可視範囲と高層建築物の影響範囲

表-6 高層建築物による景観要素への影響

		←北西(陸地)側														南東(海)側→													
区間	景観要素 視定点	景観要素																											
		八景山上	八景音山	三茶の庵	森の庵	大の島	中島茶屋	小島茶屋	北条水戸	中島茶屋	魚島屋	中島茶屋	松高の庵	玄庵	船着場	御上船亭	御山腰	運度岸のの	運度岸の交	運度岸の交	運度岸の交	新富士見山	旧富士見山	海手茶の	新海手茶の	磯之口	磯之口上		
八景山上	15	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
中島の茶屋	22	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
中島の茶屋	23	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
(新)富士見山	39	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
御山上	60	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	

● 周辺のビルによって
影響を受けている景観要素

建築物は建ち上がっていないため、いずれの視点場でも全方向が建築物の影響を受けているわけではない。

4. まとめ

浜離宮の大泉水と横堀地区の景観構造について、景観要素と視点場の連なりから構成されるシークエンス景観を、断面模式図とダイアグラムにより表し、分析を行った。結果、以下の4点が明らかになった。(図-5)

第一に当該地域の景観構造は、4つのシークエンス景観と眺望点から構成されている。即ち、大泉水中央部、大泉水周辺部、横堀、そして大泉水と横堀の中間帯、及び4つの築山の頂点と中島茶屋である。これらは明確に異なる景観的特質を有している。

第二に、海の景観の見せ方と体験を、最も重要なテーマとして造られている。即ち、大泉水は、閉ざされた理想郷的な海景として中央部の開放的景観と大泉水をめぐる見え隠れする変化に富んだ景観との双方から構成される。対照的に横堀は、おおらかで満ち干ある海景の表出を意図して作庭が行われている。この異なる海景を繋ぐ為、双方の空間への手がかりを有する中間帯を挿入しており、広大な庭園にめりはりを与えている。

第三に、庭園内部を俯瞰、及び海への展開を意図した眺望点が要所に設けられている。眺望点は、各々異なる景観構成だが、多様な景観を鑑賞者の全体的な体験の中に秩序づける役割を持つ。

第四に、重要な視点場の景観のほとんどが、周辺の高層建築物の影響を受けていることがわかった。庭園景観への詳細な影響については、今後、鑑賞者の心理分析等も含めた研究が課題である。

また今回の分析は、現在の庭園を対象として行っており、海景、植栽、その他景観要素の消失や移設などに関する作庭当初からの歴史的变化による景観への影響、及び季節による景観変化等に関しては今後の研究課題としたい。

浜離宮は、世界に誇る歴史的庭園であるが、再開発事業により甚大な影響を受け、これ以上、庭園内からの景観に無配慮な建築物による影響を防ぐことが急務である。特に今後築地地区が建ち上がる場合、(新)富士見山・中島茶屋の、まだ建築物の影響を受けない視野範囲をも失うことになる。歴史的庭園景観の保全を前提とする景観管理計画策定等、法定計画として実効性ある景観施策の展開が必要であり、周辺地域の再開発側と庭園側との話し合いの場を設定することが緊急に必要である。

引用文献

- 1) 進士五十八・清水武・竹俣民人 (1988) : 東京都文化財庭園の景観破壊と現況 : 造園雑誌 52(5), 43-48
- 2) 高橋睦・石川幹子 (2004) : 円覚寺に見る古都鎌倉における宗教的谷戸空間の景観構造に関する研究 : ランドスケープ研究 67(5), 659-664
- 3) 宮岸幸正・林野博司 (1992) : シークエンス景観における景観行動と空間の・インパクト度との関係 : 日本建築学会計画系論文集 440, 119-125
- 4) 服部勉・進士五十八 (1994) : 江戸期浜離宮における造園構成についての研究 : 東京農業大学農学集成 38(4), 323-334
- 5) 服部勉・進士五十八・大多和美佳 (1990) : 浜離宮庭園の生活史的研究 : 東京農業大学農学集報 35(1), 43-56
- 6) 服部勉・進士五十八 (1991) : 江戸期浜離宮における回遊利用図上復原についての研究 : 造園雑誌 54(5), 25-30
- 7) 服部勉・進士五十八 (1994) : 浜離宮庭園における鴨場についての研究 : 造園雑誌 57(5), 1-6
- 8) 藤井英二郎・浅野二郎・金眞成・張美娥・宮内泰之 (2003) : 家宣期の浜御殿の庭園構成技術に関する史的考察 : 日本庭園学会 10 周年記念論文集, 40-45
- 9) 白志星・浅野二郎・冲中健・安藤俊比古・藤井英二郎 (1987) : 浜離宮及び小石川後楽園における水景の構成手法に関する研究 : 造園雑誌 50(5), 227-232
- 10) 中島宏 (2003) : 浜御殿の植栽構成に関する史的考察 : 日本庭園学会誌 11, 1-15
- 11) 浜御殿図 : 東京グリーンアーカイブス所蔵